

# 近聞遠見



岩見 隆夫

衆院の議席数が多い順に並べると、民主、自民、公明、共産、社民、みんな、国民新、新党日本の8党、この年の瀬、例外なく揺れている。変革期の政党はどうあるべきかと、そこに、葉書エイズ被害者で無所属の川田龍平参院議員(東京選挙区・33歳)が一石を投じた。川田は1日の記者会見で、入党を求められた民主党を、

「議員立法の禁止や議員連盟の加入制限など一党独裁的な政治が行われている。自由な発言ができない」などと手厳しく批判、誘いを断ってみんなの党(渡辺喜美代表)に入党したと発表したのだ。

与野党勢力が拮抗している参院では、1議席が大事にされる。07年夏の初当選の直後から民主党に勧誘され、最近

は石井一選対委員長が「13年の参院選に、東京から3人目の民主党候補(07年参院選では民主2議席)で立たないか」と誘ったという。一方、みんなの党とは、江田憲司幹事長が無所属のころから付き合いが長く、結党前に、「新党を作るが来ないか」と請われていた。社民党からも同一会派で、と誘われ、結局、3党から声がかかったのだ。

川田は支援者の会を何度も開き、意見を求めたが、3党の評価はマチマチだった。みんなの党について、年配の支持者から、「石原慎太郎といっしょにやるのか」と言われ、驚いたこともあ

る。渡辺代表の父、美智雄と石原らが昔、行動タカ派の青嵐会を作ったイメージがまだ残っていたらしい。川田は、「みんなの党はしがらみがなく、党議拘束もない。一途に(脱官僚)を目標していることにいちばん共感を覚えた。構造的な葉書も官・業の癒着からだから」

## 川田龍平が投じた「一石」

基本法、原爆症救済法などが処理されたが、患者への配慮に欠け、すべて拙速、国対政の常識が崩れてきた。民主党のなかだって毎日コロコロ変わって来ますよ。国民と近くあった。インターネットなんかで国民と議員の垣根も取っ払われてきたし……」



え・西村晃一

と入党を決断した理由を語った。それだけではない。そんな面もある。とにかく、なかの雰囲気は暗い。民主党の友人は「抑えられて何もできないよ」とぼやいている。こんなこと、長く続かない」

「小沢さんのことはよく知らない。葉書エイズを訴えた」

夫人はノンフィクションライターの堤未果、ルポ 貧困大国アメリカ(岩波新書・08年刊)で昨年、日本エッセイスト・クラブ賞を受賞した。

「毎日、妻と情報交換している。こんどはかなり大きな決断だったので、もちろん相談したが、『いいじゃないの』というところ」

みんなの党での新ポストは、浅尾慶一郎政調会長のもとで会長代理。

「もっと動けば変わる」が川田のキャッチコピー、一人一人の人間を大切に医療と教育に立ち向かうという。